

**社民党**

# 渡辺みのる

通信

● 第 54 号 ●

発行日/2021年(令和3)1月(12月議会号)

発行/渡辺みのる後援会

石川町大字北山形字引地1

電話&FAX 0247-26-6994

携帯 090-2798-0434



古殿町出身の現代美術家生田目満夫の「丑」の版画です。生田目さんは昨年5月に中国上海・杭州、10月ニューヨーク、12月台湾高雄で個展を開催。国内では昨年6月水戸京成百貨店で個展、7月福島空港で東京オリンピック認定事業現代ガールズコレクション、9月うすい百貨店で個展の開催など国内外で活躍中です。

**写真説明**

**新年明けましておめでとうございます**  
**コロナを乗り越え、**  
**新たな1年を踏み出そう**

2021年1月1日は、日本列島大寒波大雪の中で、この地方は穏やかな新年を迎えることができました。

コロナ禍で、子どもや孫の帰省もなく、1日も早いコロナの収束を願うばかりです。

12月定例会は、12月3日から10日まで8日間開催。一般質問は7名が登壇し、医療や保育、介護など福祉、教育、道路、定住、コロナ対策など町長の考えを質問しました。

議案では、令和4年度から沢田小学校を石川小学校に統合する改正条例を可決しました。更に、旧中谷第2小学校の校舎を一般社団法人ひとくらす（代表理事三森孝治）に無償貸し付けすることが決まりました。

東日本大震災で「絆」が叫ばれましたが、その人と人との絆がコロナで断ち切られています。コロナ後を見据え、人と人との絆、支え合いを培うことにも目を向けていきましょう。

**12月21日～22日400年ぶりの天体ショー**  
**木星と土星が大接近 会合が見れた**

12月21日から22日にかけて、夕方西の空で、木星と土星が見かけ上の大接近するのを、自宅の庭から見る事ができました。

木星は約12年、土星は約30年の周期で太陽の周りを公転しているため、約20年に一度、空で接近しますが、今回のような大接近は約397年ぶりでした。惑星と惑星の接近を「会合」といいます。木星と土星が次に同じくらい接近するのは60年後の2080年3月。若い方は2回目を見ることが出来るかも。

この機会に、宇宙の不思議や太陽系、地球の不思議に触れてみませんか。

▲土星と木星の会合(仙台市科学館資料より)



◆一般質問から◆

**渡辺：川井橋の災害復旧はいつになるのか**

**町長：県との協議もあり、困難である。復旧に向け努力します。**

昨年の台風水害で、町内で3橋が流失しました。1年が過ぎても、復旧に見通しは立っていませんので、復旧の見通しと町長の姿勢を質問しました。橋は建設するに至るには、多くの人の要望や努力があってつくられてきたもので、生活に必要なものです。災害によって流失してしまったときに、「難しい」となって復旧できていないことに、疑問を感じます。水害によって、今までの日常生活が保たれなくなったのだから、復旧することは町の仕事ではないだろうか。

**渡辺** 流失した3橋の復旧見通しは

**町長** 栄橋、泉橋、川井橋が流失し、3橋の復旧は河川管理者である県と協議しているが、非常に困難と考えています。

**渡辺** 栄橋と泉橋の木橋は、地元の皆さんと話し合いをするべきと思うが。

**町長** 良く説明していきます。

**渡辺** 川井橋のある地域の皆さんには、石川地方生活環境施設組合の施設で大変お世話になっています。施設ができて、交通量も多くなり、橋建設の要望が高まり、木橋が建設されました。その木橋が水害で流され、現在の鋼鉄橋が建設されたと聞いています。交通量も多く、上下の橋までの距離もありますので、復旧に向けた考えを伺います。

**町長** 県と協議を進めますが、困難な時はやむを得ないと考えています。



▲ 流失した川井橋の撤去が行われた両岸

**渡辺** 鋼鉄橋は災害復旧で建設されたと聞いたが、町長の考えを伺う

**町長** 昭和52年3月に建設です。可能性を探っていきます。努力はします。

**渡辺** 地元への説明、話し合いの考えは。

**町長** 地元と協議していきます。



▲ 朝日を浴びて、春を待つクヌギやナラの雑木林

**渡辺：町の応援団、関係人口推進の考えは**

**町長：積極的に呼び込むように取り組む**

**渡辺** 町の応援団である関係人口促進の考えを伺います。

**町長** 関係人口とは、定住人口や交流人口でもなく、その地域や地域の人々と関係する人々のことで、その地域の担い手や応援する人材として期待されています。

高校生や桜、鉾物、文化財などの来訪者に対し、交流人口から関係人口に、移住定住を見据えた取り組みをしていきます。町の取り組みを国も支援します。

**渡辺** 毎年、高校生が本町で3年間学び、卒業していきます。

また、資料館や鈴木重謙屋敷に来る方もいる、町の応援団になってもらってはどうか。

**町長** 積極的に、呼び込むように取り組みを推進します。

🌞 子どもたちの未来のために🌞

**コロナ禍で、大人が模範の行動を**

2回目の緊急事態宣言が11都道府県に出されました。今回、学校の臨時休校は行われなくなりました。今回は、地域の状況を把握しないままいきなり全国一律の休校が始まり、日中子どもたちをどうするかで悩んだ家庭も少なくなかったようです。コロナ禍の中、家庭内暴力や児童虐待の件数も増えています。だれかに不満の矛先を向けるのではなく、みんながピンチの時こそ、やさしさでつながりあいたいものです。

そして、大臣や首長など、命や財産を左右する人たちには、「ともに乗り越えるために・・・」という、「北風」ではなく「太陽」のメッセージを送り続けてほしいものです。

3月11日、東日本大震災から10年。あの時、放射能から逃れてきた方々が、市町村の施設で不安な日々を送られていました。その方たちの立ち直りをあと押ししたのは、ボランティアの笑顔や親切な声かけ、温かい食事だったそうです。子どもたちも辛さを体験しています。「辛さをどう乗り越えていくのか」を大人が、行動やメッセージで、しっかり伝えることがとても大切だと感じています。

(K.H)

◆一般質問から◆

### 渡辺：専用ヘリポートの設置は、夜間診療の整備は 町長：ヘリポートは来年度中に、夜間診療は今後、検討

塩田町長は、9月議会で「ひらた中央病院との誘致を断念する」、そして「早急に多様な方法による医療体制の整備に努める」と発言しました。しかし、選挙公約であり、町民の期待が大きかった病院誘致にもかかわらず、医療体制の整備に関し、具体的な施策は示しませんでした。町長の考えを尋ねました。



▲町議会で11月21日バイパスのトンネル工事視察

**渡辺** 医療体制の整備のための町の支援策を伺う。

**町長** 石川郡と須賀川市、岩瀬郡で寄付口座を開設し、公立岩瀬病院と福島病院の産婦人科、小児科の確保に努めています。

石川郡医師会の協力を得て、休日診療を実施、さらに町内8診療所の継承及び新診療科の開設を支援する補助金を創設しています。

**渡辺** 今後、医療体制充実の考えは。

**町長** 不足する診療科の確保、在宅医療の充実、TCTを活用した診察などを検討していきます。

**渡辺** 専用ヘリポート設置の考えを伺う。

**町長** 来年度中に専用ヘリポートを整備します。

**渡辺** 夜間診療の整備の考えは。

**町長** 今後、検討していきます。

**渡辺** 緊急医療で、時間短縮が必要、考えを伺う。

**町長** 時間短縮を模索していきます。

**渡辺** 病院誘致断念について、町民説明会の開催は。

**町長** 各地区などの会合で、お話していきます。



▲北山形入口でコロナ侵入阻止の神たち

### 【12月補正予算】 コロナ対策費や公園災害復旧事業費を計上

9月議会に一般会計など5会計の補正予算が提案され、可決されました。一般会計は8,161千円増の総額105億2千万289千円となりました。

・ ・ 一般会計の補正予算で計上された主な事業 ・ ・

① コロナ対策	
・ 新型コロナウイルス対応従事者慰労金	1,350千円
・ コロナ対策消耗品	2,255千円
② 福祉車両購入	1,628千円
③ 障害福祉サービス等給付事業費	57,856千円
④ 民間保育施設運営支援事業	11,046千円
⑤ 飲料用井戸等給水施設整備事業補助金	3,000千円
⑥ 公園災害復旧事業	24,543千円
⑦ 町営住宅外壁等改修工事	14,600千円
⑧ 道路除雪費用	13,000千円



### コロナ禍で、 非正規4割が窮地に

新型コロナウイルスの感染拡大が1年になる中、日本の働く人の4割を占める非正規労働者が、窮地に陥っている。30以上の団体からなる「新型コロナウイルス災害緊急アクション」には、4月から連日、深刻なSOSが届いている。

例えば、警備の仕事をしていた男性は、コロナで仕事がなくなり、住んでいた寮を出た。そこからは公園で野宿の日々となり。支援団体にSOSをしてきた。

又、引越し屋で働いていた男性はコロナの影響で仕事がなくなり、所持金200円ほどでSOSしてきた。

もう一人、派遣で働き寮生活をしていた男性はコロナで仕事を紹介してもらえず、所持金も食料も尽き、16日間、水だけで過ごしたという。真夏、幸い、寮にはエアコンがあり、水道も出たから命をつなぐことができた。命の危機を感じSOSしてきた。

日本は、長いことかけて非正規を増やしてきた。そうして「雇用の調整弁」として今や4割の人が不安定な働き方をしている。その結果、大企業の巨大化や保険金の増大に対して、働く人たちの貧困化が進み、貧富の格差が拡大し続けている。

コロナ過は、日本社会の弱い人たちを直撃し、日本社会の現実を映し出している鏡に見えます。

(月刊社民11月号「世界を掴むいくつかの方法」

雨宮処凛より)

社民党

# 渡辺みのる通信

● 第 54 号 ●

発行日/2021年(令和3)1月(12月議会号)  
 発行/渡辺みのる後援会  
 石川町大字北山形字引地1  
 電話&FAX 0247-26-6994  
 携帯 090-2798-0434



古殿町出身の現代美術家生田目満夫の「丑」の版画です。生田目さんは昨年5月に中国上海・杭州、10月ニューヨーク、12月台湾高雄で個展を開催。国内では昨年6月水戸京成百貨店で個展、7月福島空港で東京オリンピック認定事業現代ガールズコレクション、9月うすい百貨店で個展の開催など国内外で活躍中です。

写真説明

## 新年明けましておめでとうございます コロナを乗り越え、 新たな1年を踏み出そう

2021年1月1日は、日本列島大寒波大雪の中で、この地方は穏やかな新年を迎えることができました。

コロナ禍で、子どもや孫の帰省もなく、1日も早いコロナの収束を願うばかりです。

12月定例会は、12月3日から10日まで8日間開催。一般質問は7名が登壇し、医療や保育、介護など福祉、教育、道路、定住、コロナ対策など町長の考えを質問しました。

議案では、令和4年度から沢田小学校を石川小学校に統合する改正条例を可決しました。更に、旧中谷第2小学校の校舎を一般社団法人ひとくらす(代表理事三森孝治)に無償貸し付けすることが決まりました。

東日本大震災で「絆」が叫ばれましたが、その人と人との絆がコロナで断ち切られています。コロナ後を見据え、人と人との絆、支え合いを培うことにも目を向けていきましょう。

## 12月21日～22日400年ぶりの天体ショー 木星と土星が大接近 会合が見れた

12月21日から22日にかけて、夕方西の空で、木星と土星が見かけ上の大接近するのを、自宅の庭から見る事ができました。

木星は約12年、土星は約30年の周期で太陽の周りを公転しているため、約20年に一度、空で接近しますが、今回のような大接近は約397年ぶりでした。惑星と惑星の接近を「会合」といいます。木星と土星が次に同じくらい接近するのは60年後の2080年3月。

若い方は2回目を見ることが出来るかも。

この機会に、宇宙の不思議や太陽系、地球の不思議に触れてみませんか。



▲土星と木星の会合(仙台市科学館資料より)